



有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家。写真は、大阪府茨木市福井(筆者撮影)

### 大阪の特産品アヘン

JR茨木駅から北に国道一七一号線を越える。その辺りが旧三島郡福井村、現在は市街地化している。ここに二反長音蔵という農民がいた。



二反長音蔵(1875~1950)

である。

日本のアヘン政策は、英国より大規模にもかかわらず、学校では教えない。岸信介や大平正芳など首相経験者が関わったこと。

三菱商事、三井物産がペルシャ(イラン)から密輸したこと。三共や武田など製薬会社がアヘンを精製してモルヒネ、ヘロインを生産していたこと。権力や資本に

日清戦争後の台湾支配から敗戦に至る五十年、日本はアヘンを重要な財源に戦時体制を継続した。そのアヘン生産を支えたのが音蔵

不都合なことは子供には教えない。台湾総督府はアヘンの専売制を実施した。原料はペルシャ、トルコ、インドなどから輸入した。二十歳になつたばかりの音蔵は、自給すれば国家財政が助かる

と、関係機関に何度も建白書を出した。これを総督府民政長官の後藤新平が採り上げた。後藤は台湾の中毒者の吸引量を漸減し止めさせるため、必要なアヘンを入手しよう

とした。音蔵は、三島郡から京都の桂村までのケシ栽培指揮監督の囑託を受ける。アヘン精製は、星一(はしひと)の星製薬がやった。息子の星新一は『人民は弱し官吏は強し』(新潮文庫)に事情をくわしく書いています。

第一次世界大戦の始まり

「軍隊ではヒロポンを特攻隊の人に打っていました。戦争が終わつたら要らんようになつて、広告出して(薬局で)売られたんです。軍隊というか国の都合が先で、国民はええように振り回されてました。太宰治さんや織田作之助さんがヒロポン中毒になりはつた。漫才のミス・ワカナさんも亡くなつた。私もガタガタです」

軍は占領、傀儡の蒙古連合自治政府を樹立した。ここで大量のアヘン生産が始まった。戦争の八年間、百万の軍隊をアヘンで支えたのが日中戦争である。

### ケシについて

ケシの開花が終わるとケシ坊主ができる。それに傷をつけ樹液を採る。これを乾燥させたものが生阿片で、さらに乾燥させた阿片煙膏を吸引する。

生阿片を工業的に加工してモルヒネをつくる。鎮痛剤と麻薬の両方に使う。モルヒネの化学処理からヘロインができる。これは全くの麻薬。

厚生労働省資料によると、



ミヤコ蝶々(1920~2000)

同次元です。

### 三人の発言

ミヤコ蝶々(毎日新聞一九八五年六月二日)

「軍隊ではヒロポンを特攻隊の人に打っていました。戦争が終わつたら要らんようになつて、広告出して(薬局で)売られたんです。軍隊というか国の都合が先で、国民はええように振り回されてました。太宰治さんや織田作之助さんがヒロポン中毒になりはつた。漫才のミス・ワカナさんも亡くなつた。私もガタガタです」

西村晃(井筒和幸監督への言)

「私は予科練上がりの特攻隊だろう。あのポン打つて出てつたのはほんとだよ。あと操縦桿と股の間に日本酒の小瓶もしまつて出ていったんだ。ニュース映画

で見る別れの盃を一杯なんて広報用の演出だよ」

藤原道子議員(一九五一年二月十五日参議院厚生委員会)

「このヒロポンは戦争中に軍需工場等で使われた。あるいは特攻隊にも使われた。予備隊の常備薬にもこれが入つておる」

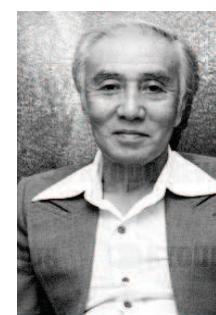
「このヒロポンは戦争中に軍需工場等で使われた。あるいは特攻隊にも使われた。予備隊の常備薬にもこれが入つておる」

### 軍神磯川質男

JR茨木駅前の商店街に今は看板だけが残る「宝寿

金になつたらしい。

JR茨木駅前の商店街に今は看板だけが残る「宝寿



西村晃(1923~1997)



当時のアヘン専売所の看板

州事変から日中戦争の時期、日本は戦費調達のため、栽培を朝鮮、熱河省、蒙古へと拡げる。

白頭山の国境周辺で朝鮮人たちに栽培、生産を強制した。ただ、後にこれは抗日ゲリラ対策のため熱河省に限定した。

これらの土地での指導のため、音蔵は数十名の軍隊に守られ、老齢にもかかわらず、何度も出向いた。

この倒錯した音蔵や国家の精神構造は、今に至るまでニッポンの不変の病である。大陸で大量の中毒者や死者が出るという他者への想像力が決定的に欠けている。

熱河省は現在の内モンゴルの一部に当たる。日中戦争を始めると、内モンゴル、華北を合わせた地域を日本

で見る別れの盃を一杯なんて広報用の演出だよ」

藤原道子議員(一九五一年二月十五日参議院厚生委員会)

「このヒロポンは戦争中に軍需工場等で使われた。あるいは特攻隊にも使われた。予備隊の常備薬にもこれが入つておる」

「注」予備隊とは警察予備隊、現自衛隊のこと。朝鮮戦争中、米軍は手薄になる日本国内の「治安」のため、米軍補佐部隊として、急遽設立させた。現自衛隊法十五条の三第一項に「自衛隊は麻薬、覚醒剤原料を所持できる」とある。ヒロポンやゼゾリンは現在も製造されている。

### 軍神磯川質男

JR茨木駅前の商店街に今は看板だけが残る「宝寿

州事変から日中戦争の時期、日本は戦費調達のため、栽培を朝鮮、熱河省、蒙古へと拡げる。

白頭山の国境周辺で朝鮮人たちに栽培、生産を強制した。ただ、後にこれは抗日ゲリラ対策のため熱河省に限定した。

これらの土地での指導のため、音蔵は数十名の軍隊に守られ、老齢にもかかわらず、何度も出向いた。

この倒錯した音蔵や国家の精神構造は、今に至るまでニッポンの不変の病である。大陸で大量の中毒者や死者が出るという他者への想像力が決定的に欠けている。

熱河省は現在の内モンゴルの一部に当たる。日中戦争を始めると、内モンゴル、華北を合わせた地域を日本

司・宝食堂」があった。この質男(十九歳は、最初の特攻隊員として、ミンダナオ島ダバオから出撃した。オ島ダバオから出撃した。音信が途絶え、上層部は戦死と判断する。

### 二階級特進、軍神として

報道され、地元は大騒ぎになる。弔問客は絶えず、見舞品、弔問金が集まった。「軍神磯川質男一等兵曹の家」と貼紙がされ、英雄になつてしまふ。

ところが不時着して生きていたのである。上層部は責任逃れのため、あくまで死んだことにした。以降の経過は省くが、質男は七か月後、鹿児島県鹿屋上空で墜落された。二十歳になつたばかりであった。

なぜか、彼の名前が沖繩県糸満の「平和の礎」に刻

まれている。